

28 危険物施設

【関連章第7章12】

事例1 「大学の研究室で実験中に出火した火災」

出火時分 12月 12時ごろ

用途等 大学 耐火造 9/1 延 49,000 m²

選解任 該当選任あり 危険物保安監督者

被害状況 建物部分焼 1棟 50 m²等焼損

概要

この火災は、大学の5階研究室から出火したものです。

出火原因は、学生が実験で使用した薬品（ターシャリーブチルリチウム（危険物第三類・自然発火性物質及び禁水性物質））を廃棄する際に、実験器具内に残存した当該物質を誤って滴下させてしまったため、滴下された漏斗上で自然発火し出火したものです。

実験を行っていた学生は、漏斗上から炎が立ち上がるのを発見後、すぐに近くにいた学生に知らせ、知らせを受けた学生は実験用白衣ではたいて初期消火を実施しています。また、自動火災報知設備の鳴動と避難する学生から火災の発生を知った教員が119番通報を実施しています。この火災で建物内にいた60名以上が自動火災報知設備の鳴動や煙で火災に気づき屋外に避難しています。

教訓等

研究室には様々な化学薬品が置かれており、化学薬品にはそれぞれに応じた取扱方法があります。その取扱方法を逸脱すると、火災や思わぬ事故が発生する可能性があります。化学薬品を扱う際には、物質の性状や危険性を認識するとともに、管理方法、廃棄方法、火災発生時の消火方法等を取り扱う者に限らず全員に周知し、火災や事故防止に努め、万が一の事態に備えましょう。

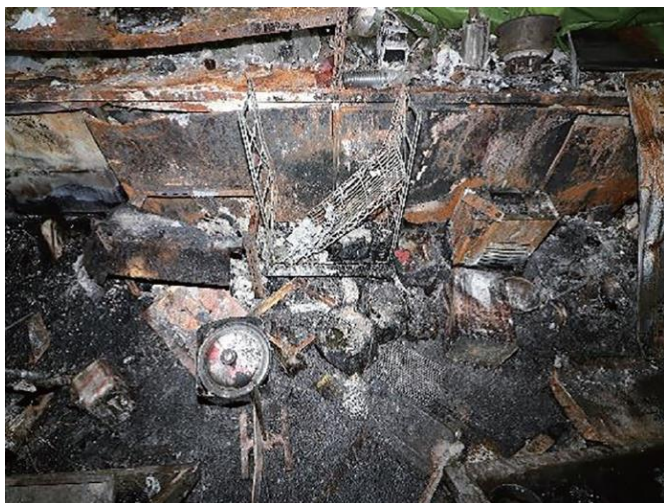


写真 28-1 出火室の焼損状況



写真 28-2 薬品の入っていた実験器具